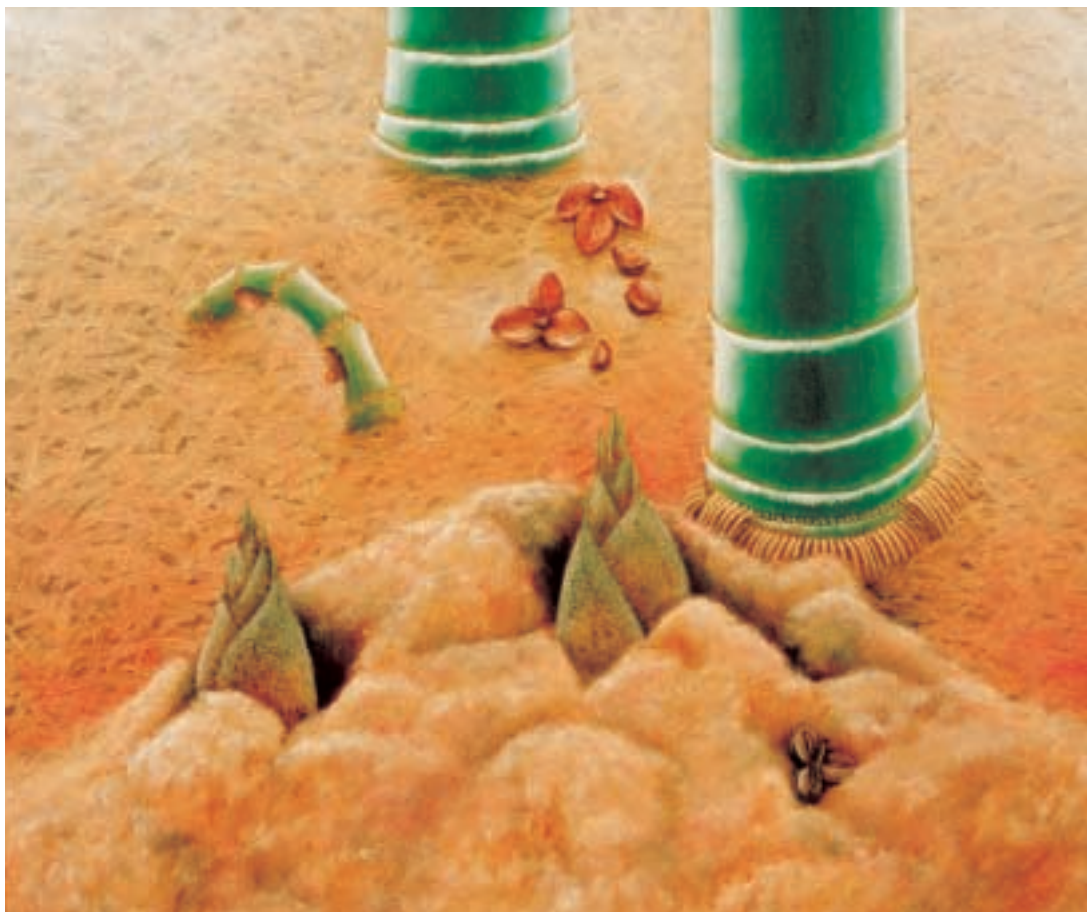




第41期 中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける唯一のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等

さまざまな業種の

包装ニーズに的確に 대응して

液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に

集中・特化させ、独自のシステムを構築することにより、

トップブランドとしての

地位を築いています。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、第41期中間事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の業績

当中間会計期間におけるわが国経済は、大企業や製造業の景況感が2期連続で改善され、景気が踊り場を抜け、引き続き回復傾向となっております。また、雇用・所得環境の改善を背景にした個人消費の増加、生産の回復を基に高水準な企業収益による設備投資の増大など、内需を中心とする自律的な回復過程へと移りつつあります。しかしながら、夏場以降の原油価格急騰の影響から、原材料値上げによる企業収益の悪化など不透明な要因も多く、景気回復に対する先行きが懸念される状況にもあります。

当軟包装業界におきましては、原油価格高騰の影響により、今後さらなる原材料値上げに対する不安感は強く、業界各社の利益確保が一段と厳しい環境となっております。

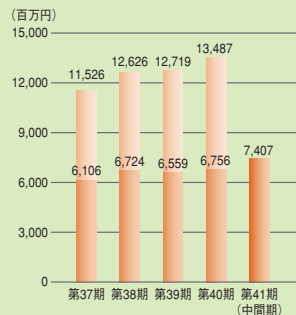
このような状況のもと、当社は、フィルムと包装機械の両者を提供することによる付加価値の高いサービスを実現し、包装フィルム部門において順調な受注活動を展開しました。一方、包装機械部門におきましては、前期後半から食品業界の設備投資が回復するなか、新規顧客も含

表紙の絵

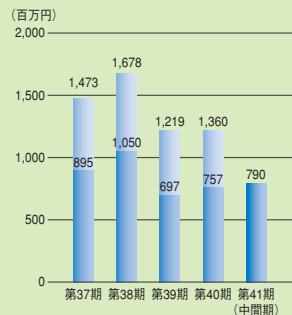
洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。

Financial Highlights 業績ハイライト

■売上高 (■中間期 ■通期)



■営業利益 (■中間期 ■通期)



めた積極的な商談により、大幅な成約を
獲得いたしました。

その結果、売上高は74億7百万円(前
年同期比9.6%増)、営業利益は7億90百
万円(同4.3%増)、経常利益は8億13百
万円(同7.2%増)、中間純利益は4億77百
万円(同4.9%増)と前年同期に比べ増収
増益となりました。

通期の見通し

包装フィルムにつきましては、樹脂・フ
ィルムなどの原材料価格の再値上げが見
込まれ、当社は製品価格への転嫁を実施
するとともに、独自の生産技術を生かし、
徹底的なコストダウンを図ると同時に、
生産管理ならびに販売管理システムの開
発を実施し、より一層の業務効率化も進
めてまいります。また高速液体自動充填
機「NT-DANGAN」の販売が好調であるな
か、当社独自のビジネスモデルであるフ
ィルムと包装機械の併販メリットを最大限に
生かし、ユーザーのより高い要求に応え、
セントラルキッチン向けを中心とした業務
用大袋の受注をのばし、新規開拓も含め
売上規模の拡大に注力してまいります。

高速自動充填機「NT-DANGAN」につ



きましては、より一層機種を充実させ、加
えて、連続生産を可能とする「オートスプ
ライサー一体型NT-DANGAN」も多くの採
用をいただいております。新規ユーザー先
に加え、既存ユーザー先の更新需要も含め
て積極的な営業活動を展開しております。

また、新型液体用複合容器「PIC
(Pouch In Carton)」、ラミネーション複合
技術を活用した非接触ICタグの量産化に
つきましても、現在実証実験中であり、今
後も積極的に対応してまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売

上高142億円(前期比5.7%増)、経常利益
14億33百万円(同3.9%増)、当期純利益
8億55百万円(同6.2%増)を見込んでお
ります。

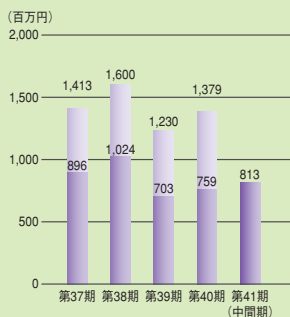
株主の皆さまにおかれましては、な
お一層のご理解とご支援を賜りますようお
願い申し上げます。

平成17年12月

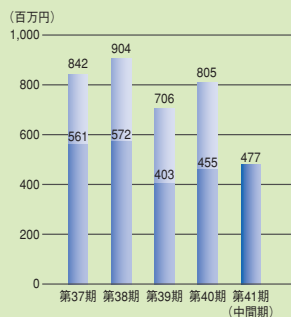
代表取締役社長

木お登

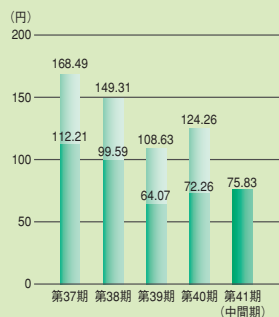
■経常利益 (■中間期 通期)



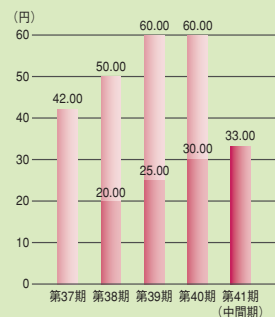
■中間(当期)純利益 (■中間期 通期)



■1株当たり中間(当期)純利益 (■中間期 通期)



■1株当たり配当金 (■中間期 通期)



包装フィルム部門

■ 事業内容

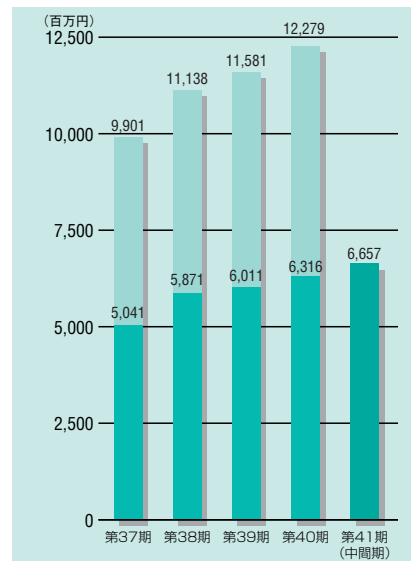
主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシングなどを入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレタリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

当社が主力とする食品業界は、個人消費の持続的な回復が見られるものの、消費者の低価格志向や、大型小売店の価格引き下げの傾向も続いており、石油製品である原材料の値上げなど、依然として厳しい環境にあります。このような状況のもと、当社はフィルムと包装機械を併販するとともに、商品とサービスの品質を充実させ、短納期・安定供給の強みを生かすことで、前年同期を上回る売上高となりました。

また、原油高騰による原材料の上昇分については、売価への転嫁と生産性の向上ならびに効率的な原材料調達を実施することで、さらなるコストダウンを進めてまいりました。

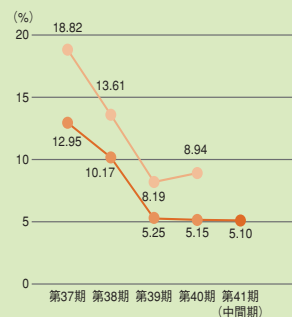
その結果、包装フィルム部門の売上高は66億57百万円（前年同期比5.4%増）となりました。

■ 包装フィルム部門売上高推移

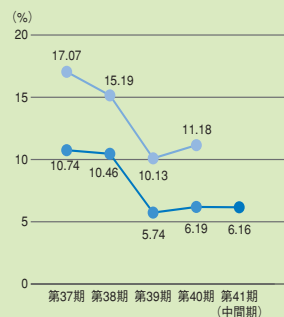


Financial Highlights 業績ハイライト

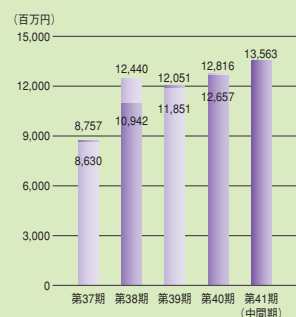
■ 株主資本利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 総資産経常利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 総資産 (■ 中間期 ■ 通期)



包装機械部門

■ 事業内容

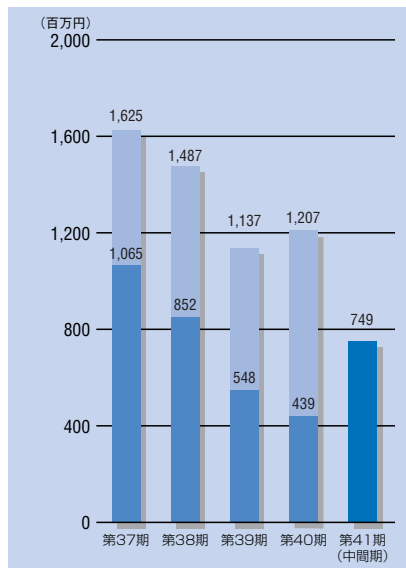
当社と日本精機（株）が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカーなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれなどの少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パックなどの大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

高速液体自動充填機「NT-DANGAN」につきましては、当第1四半期に引き続き活発な商談を行い、とりわけ大手即席麺メーカーなどに複数台の導入が続いたのをはじめ、液体充填作業の稼働効率を飛躍的に高めることが可能な「オートスプライス一体型NT-DANGAN」の受注も獲得でき、好調に推移しました。

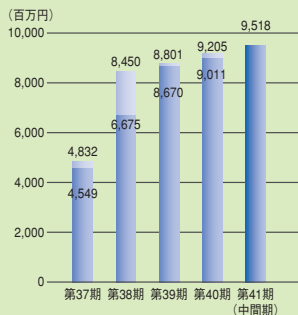
また、外食産業などで導入されているセントラルキッチンを中心に、業務用のニーズに対応した「NT-DANGAN大容量タイプ」の採用も進み、受注・売上高ともに前年同期を大幅に上回ることができました。

その結果、売上高は7億49百万円（前年同期比70.5%増）となりました。

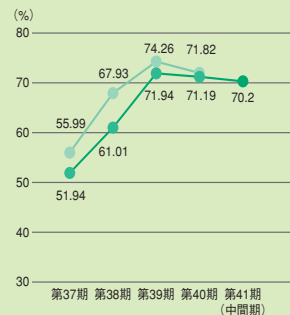
■ 包装機械部門売上高推移



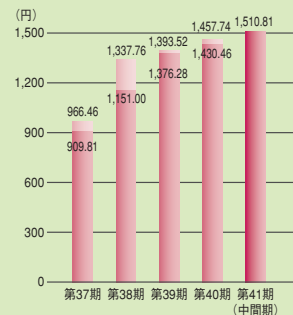
■ 株主資本 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 株主資本比率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 1株当たり株主資本 (■ 中間期 ■ 通期)



身近な暮らしの場で活躍する 大成ラミックのフィルム包装技術

液体・粘体包装フィルムのパイオニアとして市場をリードする大成ラミック
その優れた技術は、私たちの身近な場で活躍しています。



多彩な包装フィルム製品



押し出しラミネート機

包装フィルムとプラマーク

容器包装リサイクル法の施行により、包装フィルムには、プラマークと使用されるプラスチック素材が表示されております。

その表示されたプラスチック素材の構成にこそ、包装される内容物を守るための多くの工夫があり、フィルム包装技術のひみつがかくされています。

私たちが日常利用するコンビニやスーパーに並ぶ弁当等に添えられているソース、ドレッシングなどの各種調味料用小袋には、液漏れリスクを解消する密封性はもちろん、耐久性、耐衝撃性、耐熱性が求められています。

独自の複合加工技術力が 顧客の課題にフレキシブルに対応

当社は、こうしたニーズに幅広く対応するため、独自のラミネート技術によって押し出し加工した複合フィルム「t l f (大成ロジカルフィルム)」を開発しました。厚さわずか0.1ミリにも満たない同フィルムは、外側には印刷適性に優れたベースフィルム、中間層には充填された内容物を紫外線や酸素から保護する機能性を兼ね備えたサンドフィルム、内側には密封性を高め熱で融着するシーラントフィルムというように、特性の違ったフィルムが何層にも貼り合わされています。

また、フィルムの厚みを変えることはもちろん、求められる機能によって、ナイロン（PA）、ポリエチレン（PE）、ポリプロピレン（PP）など、素材の組み合わせを変え、顧客のオーダーに最適なフィルムを提供しています。

識別マーク（プラマーク）



〔素材記号例〕

PE =ポリエチレン

PA =ポリアミド（ナイロン）

PP =ポリプロピレン

PET=ポリエチレンテレフタレート（ペット）

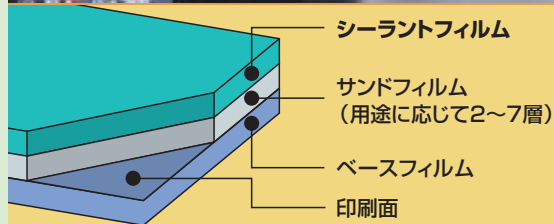
時代のニーズを的確に察知し 次世代市場を開拓

多様な液体・粘体製品に対応できるフィルム技術を背景に、当社の製造する包装製品の種類は実に1万アイテム、顧客数は大手即席麺メーカーから地域の食品メーカーまで約600社以上に及んでいます。

ハード（充填機）とソフト（フィルム）の両面から培われた技術とノウハウは、常にお客様に的確なソリューションを提供するとともに、品質向上と生産性拡大に大きく貢献しています。

さらに、充填機械のバリエーションも、業務用大袋、ノンテープジョイントへと進化しています。

包装フィルムと構成例



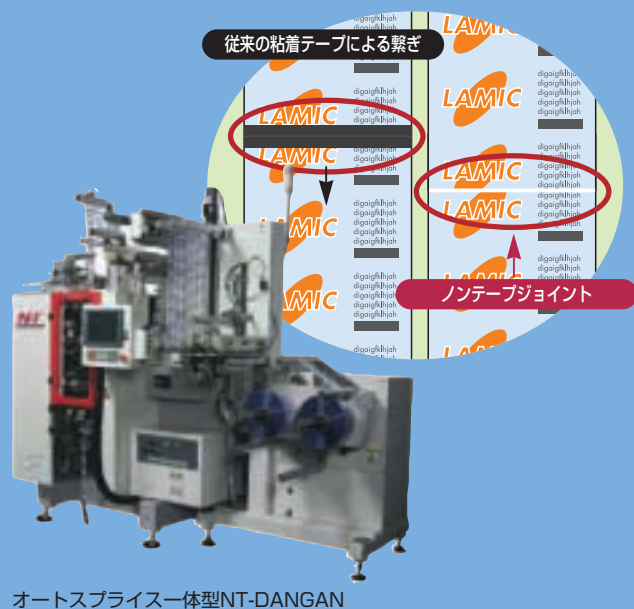
充填機械を止めない接合技術が
生産性と品質を飛躍的に向上

オートスプライス （自動フィルム繋ぎ装置）

従来、充填作業において、粘着テープで接続した包装フィルムでは、接続部分のシール不良などによる不具合、接続部前後のフィルム、機械を止めることによる作業時間の大きなロスが発生していました。

ラミネートの組成のみでフィルムを接続する独自のノンテープジョイント技術を用いた「オートスプライス一体型NT-DANGAN」では、機械を止めずにフィルムの接続を行うことを可能とし、シール不良などの不具合もなく充填作業が飛躍的に向上しました。

食品メーカーの採用が本格化し、それにともない包装フィルムの受注も好調に推移しています。



貸借対照表

（単位：百万円）

科目	第41期中間期 平成17年9月30日現在	第40期中間期 平成16年9月30日現在	第40期 平成17年3月31日現在
●資産の部			
流動資産	8,560	7,964	8,007
現金及び預金	2,649	2,411	2,353
受取手形	1,376	1,515	1,068
売掛金	3,011	2,477	3,049
たな卸資産	1,340	1,381	1,390
その他	188	182	150
貸倒引当金	△ 5	△ 3	△ 4
固定資産	5,002	4,692	4,809
有形固定資産	4,385	4,137	4,249
建物	2,086	2,124	2,081
機械及び装置	1,066	804	972
土地	839	839	839
その他	392	369	355
無形固定資産	120	122	122
投資その他の資産	497	432	437
投資有価証券	439	253	366
その他	80	192	87
貸倒引当金	△ 21	△ 13	△ 16
資産合計	13,563	12,657	12,816

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント！

機械及び装置

第2期生産設備導入にともない、機械及び装置が増加しております。

科目	第41期中間期 平成17年9月30日現在	第40期中間期 平成16年9月30日現在	第40期 平成17年3月31日現在
●負債の部			
流動負債	3,881	3,499	3,460
買掛金	2,614	2,343	2,410
未払金	668	618	539
未払法人税等	362	331	306
賞与引当金	181	164	170
その他	54	43	33
固定負債	164	145	150
退職給付引当金	95	86	88
役員退職慰労引当金	62	59	61
その他	5	—	—
負債合計	4,045	3,645	3,610
●資本の部			
資本金	2,408	2,408	2,408
資本剰余金	2,896	2,896	2,896
利益剰余金	4,126	3,699	3,860
その他有価証券評価差額金	86	7	40
資本合計	9,518	9,011	9,205
負債及び資本合計	13,563	12,657	12,816

ここがポイント！

未払金

本年8月に稼動した、第2期および第3期の一部生産設備の支払いがまだ行われていないため、未払金は6億68百万円となっております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	第41期中間期	第40期中間期	第40期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
売上高	7,407	6,756	13,487
売上原価	5,577	5,025	10,188
売上総利益	1,829	1,731	3,299
販売費及び一般管理費	1,038	973	1,938
営業利益	790	757	1,360
営業外収益	26	8	31
営業外費用	4	7	12
経常利益	813	759	1,379
特別利益	—	—	—
特別損失	5	14	37
税引前中間(当期)純利益	807	744	1,342
法人税、住民税及び事業税	348	301	535
法人税等調整額	△18	△12	1
中間(当期)純利益	477	455	805
前期繰越利益	123	141	141
中間配当額	—	—	189
中間(当期)未処分利益	601	597	757

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

中間配当額

前期は中間配当金30円/株、期末配当金30円/株、合計年間配当金60円/株を実施いたしました。
当期は中間配当金33円/株、期末配当金33円/株、合計年間配当金66円/株と増配を予定しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第41期中間期	第40期中間期	第40期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	748	607	1,119
投資活動によるキャッシュ・フロー	△264	△73	△455
財務活動によるキャッシュ・フロー	△188	△219	△408
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
現金及び現金同等物の増加額	295	313	255
現金及び現金同等物の期首残高	1,546	1,290	1,290
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,841	1,604	1,546

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間期における営業活動の結果得られた資金は7億48百万円となりました。これは主に、税引前中間純利益8億7百万円、減価償却費2億40百万円、仕入債務の増加額2億3百万円等による増加、売上債権の増加額2億76百万円、法人税等の支払額3億5百万円による減少の結果であります。

ここがポイント!

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は2億64百万円となりました。これは主に、本社新工場生産設備等の有形固定資産の取得による支出2億80百万円によるものであります。

ここがポイント!

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は1億88百万円となりました。これは主に、配当金の支払額1億88百万円の支出によるものであります。

TOPICS

ISO9001・ISO14001を同時取得

京都議定書の採択など、グローバルな視野からの地球環境保全に対する取り組みが進むなか、企業自らが適切な品質・環境方針を打ち出し、健全な環境の維持に対する責任を果たすことが求められています。

当社では、ISO国際標準化機構が定めるISO9001（品質）とISO14001（環境）の規格認証を、平成17年11月に同時取得いたしました。

今後も、品質・環境方針に基づき、責任ある企業として各部署が具体的な目標を定め、さらなる品質向上および環境保全に積極的に取り組んでまいります。

<大成ラミックの品質・環境方針>

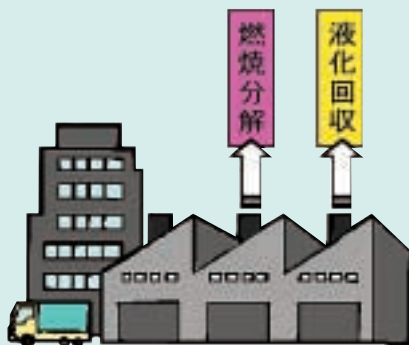
- 1 顧客満足度の高い製品とサービスを提供します。
- 2 品質向上および環境保全を配慮した設計・生産、販売活動を行います。
- 3 関連法規・条例などを順守し、環境汚染の予防と環境負荷の低減に努めます。



ISO9001 審査登録
ISO14001 審査登録
本社、本社工場、白岡工場
JCQA-1556
JCQA-E-0697



JAB
QS, EMS
Accreditation
JAB認定番号
R003, RE003



「VOC排出規制」にともなう環境対応

大気汚染防止法と埼玉県生活環境保全条例により、VOC（揮発性有機化合物）の大気放出が規制されます。

VOCの排ガス処理には、液化回収・燃焼分解などの方法がありますが、当社では最善な環境対応を目指し、現在排ガス処理装置の導入計画（平成19年3月期稼働予定）を進めております。

■ 会社概要 (平成17年9月30日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 登

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズなどの開発製造販売
高速液体自動充填機「NT-DANGAN」、周辺機器の開発販売

従 業 員 数 302名(男子263名 女子39名)ほか
臨時従業員82名

主 な 事 業 所 本社・工場(埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 東北、名古屋、大阪、福岡

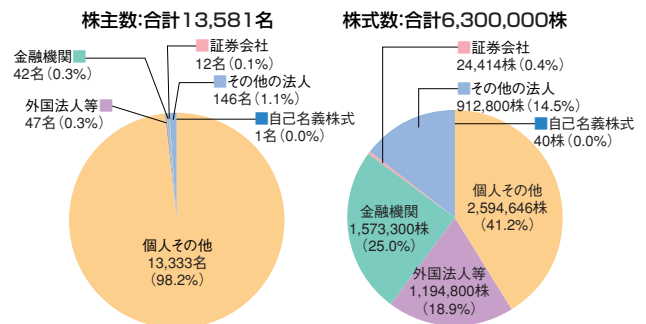
■ 役員一覧 (平成17年9月30日現在)

代表取締役社長		木 村 登
専務取締役	(管理本部長)	木 村 義 成
常務取締役	(R&D本部長)	二 瀬 克 規
取締役	(営業本部長)	村 山 淳 司
取締役	(営業本部本部長)	古 村 博
取締役	(生産本部長)	山 口 政 春
常勤監査役		里 村 睦 男
常勤監査役		裁 松 修
監査役		山 本 実
監査役		長谷川 忠

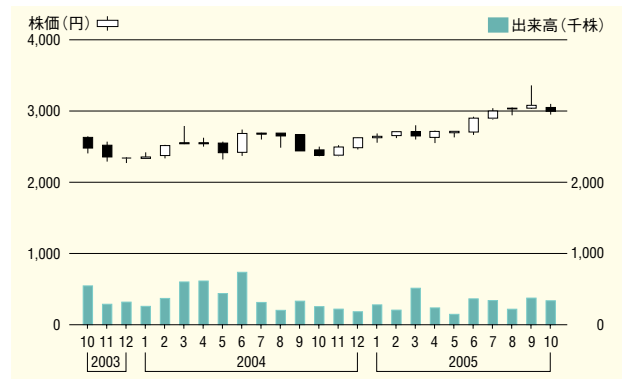
■ 株式状況 (平成17年9月30日現在)

- ・ 会社が発行する株式の総数 20,000,000株
- ・ 発行済株式総数 6,300,000株
- ・ 株 主 数 13,581名

■ 所有者別株式分布 (平成17年9月30日現在)



■ 株価／出来高の推移 (平成17年10月31日現在)



決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領 株主確定日	利益配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
1単元の株式数	100株
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付および 電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (其他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	日本経済新聞に掲載いたします。 ただし、貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 http://www.lamick.co.jp/kessan/index.html において提供いたします。

株主優待のお知らせ

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

毎年、3月31日または9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」をお届けいたします。

なお、今回は11月下旬に発送いたしました。



今回送付の食品詰合せ写真



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い変えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

社 名 **大成ラミック株式会社** (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

●本報告書は、100%再生紙を使用しています。